

茨木市立東奈良小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和5年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

〇●国語●〇

(領域ごと)

- ①言葉の特徴や使い方に関する事項 良好な結果であった
- ②情報の扱い方に関する事項 良好な結果であった
- ③話すこと・聞くこと 概ね良好な結果であった
- ④書くこと 概ね良好な結果であった
- ⑤読むこと 概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ①選択式 概ね良好な結果であった
- ②短答式 大変良好な結果であった
- ③記述式 概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もともと正答率の高かった設問→送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかをみる内容。
- ・もともと正答率の低かった設問→自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる内容。
- ・もともと無解答率の高かった設問→目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる内容。
- ・もともと無解答の低かった設問→情報と情報の関係について理解しているかをみる内容。

分析

1 傾向

- ・漢字を書くこと、正しい漢字を選択する問題は、解答率も正答率も高い。
- ・読むことに関する問題は、3問中1問正答率が全国平均を下回っている。
- ・記述式の問題は、3問中2問正答率が全国平均より下回っており、無解答率も高い。

2 成果

- ・「ことばの特徴や使い方」、「情報の扱い方」に関する課題については良好な結果だった。

3 課題

- ・「読むこと」に関する問題では、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる力に課題がある。
- ・記述式の問題については、読み取ったことを条件に合わせて表現するとに慣れていないと考えられる。

4 授業での重点的な取組み

- ・文言等の条件を指定して、短答課題に取り組む。
- ・資料を注意深く読み込み、1問1答形式で答えられる内容を多く取り入れていく。
- ・どうしてそう考えたのか等、理由を文章で表す問題に取り組む経験を学年に合わせて積み重ねていく。

〇●算数●〇

(領域ごと)

- | | |
|----------|-------------|
| ① 数と計算 | 概ね良好な結果であった |
| ② 図形 | 概ね良好な結果であった |
| ③ 変化と関係 | 良好な結果であった |
| ④ データの活用 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 良好な結果であった |
| ② 短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 概ね良好な結果であった |

- | | |
|--------|-------------|
| (無解答率) | 概ね良好な結果であった |
|--------|-------------|

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問→伴って変わる二つの数量関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかをみる内容。
- ・もっとも正答率の低かった設問→正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる内容。
- ・もっとも無解答率の高かった設問→示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる内容。
- ・もっとも無回答率の低かった設問→伴って変わる二つの数量関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかをみる内容。

分析

1 傾向

- ・選択肢のあるものは解答・正答率はともに高い。
- ・記述式になると、解答・正答率ともに低い。
- ・無解答率が全国平均より高い。

2 成果

- ・知識・技能の問題は解答率、正答率が高く、基本的な力が習得できている。

3 課題

- ・記述式の問題では、グラフから読み取った情報の特徴を捉え、考察したり、考えたことを表現したりすることに課題がある。

4 授業での重点的な取組み

- ・課題の内容を正確に読み取ることにつながる学習活動を多く設定する。
- ・日常生活の具体的な場面と結びつけて、考える課題を提示する。
- ・求め方を既習の言葉や式を使って記述する機会を設ける。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

平成 31 年度に正答率が全国平均を下回って以降、コロナ禍での実施がなかった年度を含め 3 年間、全国平均を上回っている。一方で全体的な傾向としては、推移に着目するとわずかではあるが下降傾向にある。

国語では問題文に条件指定が入る問題、算数では公式に当てはまる部分の数字を出さないといけない作業（計算）が必要な問題など、問題の意図をくみ取って解答を行う必要がある内容にまだまだ課題があると考えられる。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

学力低位層は減少している。しかし、学力高位層は前年に比べ減少している。エンパワー層もわずかではあるが減少している。以前から読み解く力の習得による言語力の向上、基礎基本の徹底、児童相互が対話的で深い学びができる授業づくりを継続的に取り組んできたが、さらなる工夫・改善を加えていく必要がある。

〇●取組み●〇

学力向上に関する取組み

1 基礎学力の定着

① 実施

- ・読み解く力（認識・思考・表現）の向上を図るために、基礎的読解力を身につける取組みを行う。
- ・低学年では MIM（国語・算数）に取り組む。
- ・書く力の育成のために、学習の中で学年に応じた要約練習や、力だめしプリントを活用していく。

2 言語活動の充実

- ① 朝の読書タイムを週 1 回実施し、読書の機会を確保する。また、地域の読み聞かせボランティアの方に来ていただくことで読書への興味関心を高める。図書館支援を担当するスクールサポーターが児童の読書意欲が高まるような図書授業の支援や図書室の環境整備を行う。
- ② 「声のボリューム」「話し方名人」「聞き方名人」という、「話す・聞く・話し合う」に関わる一定のルールを全学年に統一して示すことで、安心して伝えあう・聞きあう集団づくりに活かす。
- ③ 朝の学習時間を利用し全校で「ならっこ学習タイム」を実施し、読み解く力を育む問題の学習に取り組む。内容は、読解力・思考力・推論・視写・新聞・計算などを年間を通じて計画的に取り組む。
- ④ 給食時間の放送で、各学年の作文を発表する「ならっこタイム」を実施し、各クラスでもスピーチをする機会を確保することで、児童の表現力・発信力を育成する。

3 授業方法・内容の工夫と改善

① 授業方法

- ・めあて（目標）を確認（何をするのか、なにが分かればよいのか）する。
- ・めあてを（目標）を達成するために必要となるテキストを確認する。
- ・児童のつまづく可能性のある語句・用語・テキスト等を確認する。（基礎的読解力 6 観点、学習語彙）
- ・思考力・表現の育成につながる課題設定。

② 研修

- ・校内で学力保障部研究授業を年 3 回実施し、教職員の授業力向上に努める。また、夏季研修やまめちっち研修（校内短時間研修）を年間通じて計画を立てて実施することで教員の研鑽を図る。

4 学校全体としての取組み

- ① 年度当初と 10 月に「家庭学習・生活習慣の手引き」を発行し、家庭と児童に啓発を図り、児童に家庭学習を定着させ、よりよい生活習慣を身につけさせる。
- ② 学習規律の徹底とユニバーサルデザインに基づき、落ち着いた学習環境づくりを学校全体で構築する。（チャイム着席の徹底、学習用具の点検、話す・聴く姿勢の定着など）
- ③ 習熟度別授業や分割授業などを柔軟に取り入れ、個に応じた指導体制を工夫する。
- ④ 授業の流れを示すサインポストを全クラスで使用し、授業の流れを児童に明確に示す。
- ⑤ スクールサポーターなどの学習の支援者の配置は、各学年・各クラスの児童の学習状況に応じて適切に時間割を組み、児童が安心して学べるよう有効活用する。
- ⑥ 粘り強く課題に取り組む姿勢を育成し、あきらめて無解答とするのではなく、自分の考えを表現できるよう声掛けや支援を日々の授業を通して行う。